

平成 30 年度 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 第 1 回会議 議事概要

- 開催日時：2018 年（平成 30 年）6 月 19 日（火）午前 10 時～11 時 25 分
- 開催場所：市役所 5 階第 2 会議室
- 出席委員：伊藤裕夫委員長、富岡幸一郎副委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員
- 欠席委員：無し
- 事務局：村松教育長、芳垣市民協働部長
文化スポーツ課 阿万野課長、土屋係長、鬼原主事、森主事
- 会議の公開・非公開：公開
- 傍聴者数：0 名
- 議題：1 平成 29 年度事業に関する評価の対象、方法について
2 平成 30 年度事業について
3 その他

■資料：

【事前送付資料】

- 資料 1 [表]平成 29 年度事業に関する評価の対象、方法について（案）
[裏]評価ランクの基準
- 資料 2 平成 29 年度評価シート様式（案）
- 資料 3 平成 28 年度評価報告書

【当日配付資料】

次第

名簿

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則

資料 4 平成 29 年度評価用 事業費一覧（案）

資料 5 平成 30 年度文化振興事業について

資料 6 今後の予定について

参考資料 1 平成 29 年度逗子市文化振興基本計画 事業進行管理表及び個別計画進行管理
総括表

参考資料 2 財政対策プログラム

参考資料 3 広報ずし 1 月号（「逗子フォト」関連記事抜粋）

■内容

委員の委嘱

教育長挨拶

このたびはご多用のところ委員をお引き受けいただき感謝する。

本市では、市全体としての総合計画の下に基幹計画、個別計画という 3 層構造の計画に沿った施策を行っている。文化については逗子市文化振興基本計画に沿って施策を実施している。本会議は、その中身について意見していただくものである。市は「文化と自然が紡ぐ活力ある

まちの実現」を目指している。皆様のご経験とご見識をもとに、忌憚のない意見をいただきたい。よろしく願います。

1 開 会

委員自己紹介

定数確認

委員長、副委員長の決定

- ・委員長 伊藤裕夫委員長で決定。
- ・副委員長 富岡幸一郎副委員長で決定。

資料の確認

2 議 事

(1) 平成 29 年度事業に関する評価の対象、方法について

<委員長>

議題 1 「平成 29 年度事業に関する評価の対象、方法について（案）」、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料 1 及び資料 3 をご覧いただきたい。

平成 27 年度より、本市の全ての計画は、総合計画、基幹計画、個別計画の 3 つに分類し連携させており、全庁的に統一した進行管理を行っている。

文化振興基本計画については、参考資料 1 の内容のとおり進行管理を行っている。毎年度、上位計画である基幹計画で位置付けられている事業の目標を、その下位計画である個別計画の所管の懇話会で評価することとなっている。文化振興基本計画については、3 事業について評価しており、記載されているのは、懇話会における進行管理に対する意見である。

本会議における昨年度までの評価は、総合計画実施計画に位置付けられた事業に対して行っていたが、今回の評価シートの見直しは、文化振興基本計画の「6 つの施策の柱」に基づいた評価を提案するものである。今後は「6 つの施策の柱」にあたる事業が、柱の掲げる目的にどれだけ到達したかを評価することで、評価報告書がより文化振興基本計画に資するものとなること、また、特に前年度第二回会議でも言及されたが、本委員会からの政策提案につなげることも見越しての見直しである。

<事務局>

資料 2 をご覧いただきたい。評価シートの最上段に (1) から (6) まで「6 つの施策の柱」ごとのシートとなっている。

また「Ⅰ」「Ⅱ」については、総合計画又は基幹計画に位置付けられた事業があるもののみ記載をしている。

本日は様式についてのみ意見をいただきたい。

資料 4 をご覧いただきたい。これまでの評価シートの中に事業予算、実績費等を含めてい

たが、施策の柱ごとに事業費を分けることが困難であったので、別途事業予算についての資料を作成した。

<委員長>

昨年度までの評価に用いていた評価シートについて。作成当時、総合計画実施計画と個別計画の間には齟齬があり、文化振興基本計画には記載の無い事業が評価対象になっていたりした。そのため、評価する事業については明確であったが、ベースとなる計画がはっきりしていなかった。今回は、総合計画、基幹計画、個別計画の位置づけが明確になったので、新しい評価シート様式の提案となった。

今回の提案の背景には、本委員会の役割の再確認がある。前年度第二回会議での意見に出たように、本委員会がなぜ評価をするのかという点、行政の施策の進行評価ではなく、逗子市の文化振興がより良くなっていくために、市が行ってきた取組みがどのような成果を生み出しているかを評価する「エバリュエーション」を目指すものである。そのためには、個々の事業がどのような背景でつくられているかを明確にしつつ、個々の事業がその中で文化振興基本計画のどの部分を担っているか、それを達成できるための評価シートがどうあるべきかを、検討する必要がある。

質問だが、例えば、文化振興基本計画の「(1) 地域文化の担い手の育成」では、連携する基幹計画として「逗子アートフェスティバルの充実」とされているが、柱をより具体的にブレイクダウンした目標に①子どもたちの文化創造体験の充実、②市民のアートリテラシーの向上、③地域文化振興の担い手育成、の3点が挙げられている。新しい評価シートについて、この部分の兼ね合いはどうか。また、アウトリーチや逗子アートフェスティバルは、いくつかの柱に分かれて入ってくるので、その事業自体の評価は分かりにくくなると思う。その部分についてはどう考えているか。

<事務局>

「逗子アートフェスティバル」を例に挙げると、いろいろな目的を備えていて、複数の柱の目的を担う事業になっていると考えている。

<山崎委員>

内容については今後の議論ということでよいか。

<委員長>

その通りである。

<山崎委員>

少し内容に踏み込むが、逗子市が文化振興についてどのような方向に向かうのか、ということ踏まえて、評価シート「(1) 地域文化の担い手の育成」の「I 総合計画実施計画での位置づけと目標」のところに数値が入っているが、これは目標というより実態ではないか。計画に対する位置づけと目標はとても重要であるので、もっときちんとした記載があった方が良い。逗子市が向かうべき方向に対してどのような意味を持つのか、どのような独自の価値を持つのか、ということについて、理念に走るというよりは、より具体的な記載が望ましい。

<委員長>

「(1) 地域文化の担い手の育成」の「I 総合計画実施計画での位置づけと目標」の内容について、市民が主体となって文化を担っていく、それが目標になるが、現段階ではその具

体的な数値として 30 企画、という表現になっており、実態のように見える。

〈事務局〉

評価シートには、総合計画の中の取組みの意義や内容等について記載するように修正する。

〈山崎委員〉

何のために「地域文化の担い手」が必要なのが明確でないと、市民が読んで理解できないし、関心を持たれないのではないか。

〈委員長〉

3つの計画の流れということは分かるが、逗子市全体のまちづくりのなかの「(1) 地域文化の担い手の育成」の必要性が明確でないと、評価のしようがない、ということだ。そこを明確にするとともに、総合計画、基幹計画の具体的な内容を参考にしながら検討していただきたい。

〈富岡委員〉

「(2) 市民文化活動の活性化」では、総合計画、基幹計画での目標の設定なしとある。設定があるものとないものがあるが、これはどういうことか。

〈事務局〉

総合計画上の目標値の設定が無いということである。

〈委員長〉

個別計画には目標があるととらえてよいか。

〈事務局〉

数値目標はないが、定性的な目標が掲げられている。

〈富岡委員〉

本委員会では具体的な数値目標を入れるということか。

〈事務局〉

総合計画実施計画上では数値での目標設定の記載が無い。

〈富岡委員〉

「(1) 地域文化の担い手の育成」がなぜ必要なのか、というところが入らないと、評価のしようがないのではないか。

〈委員長〉

参考資料 1 で確認したいが、事業進行管理表で進捗管理をする 3つの事業については、予算がついているということで、そうでない個別計画の柱の(2)(4)(5)については、予算付けがされていないという理解でよいか。

〈事務局〉

予算付けが無いということではなく、全庁的な計画の進行管理の対象になっていないということである。

〈委員長〉

参考資料 1 については、所管課から企画課に提出するものだと思うが、審議会・懇話会の意見というのは、文化振興基本計画策定・推進会議の意見ということでよいか。

〈事務局〉

その通りである。

文化振興基本計画<平成 26 年度改訂版>資料編の 45 頁総合計画実施計画抜粋、48 頁基

幹計画をご覧いただきたい。この内容について、毎年度、文化振興基本計画策定・推進会議の方で進行管理をするというのが全庁的な管理に沿ったものになる。新たな評価シートの「Ⅰ」「Ⅱ」の部分は、この総合計画実施計画、基幹計画で設定されている目標である。

<委員長>

具体的な数値目標等はいくつだったかということで評価できるが、「質の向上」等については、定性的な評価をしていく必要があるということだ。

<奥野委員>

事業のどの部分を評価すべきなのか、何か示されたものについて意見していけばよいのか。

<事務局>

昨年度までは総合計画実施計画に位置付けられた事業だけを評価の対象としていたが、今後は「6つの施策の柱」に沿った事業の組み立てができているか、その実績はどうかということについて評価していただくことになる。今回は、その様式についての検討である。

<委員長>

28年度の評価報告書の「文化プラザホール管理運営事業」が、今回提案された評価シートの「6つの施策の柱」の(1)とほぼ内容が重なっている。評価シートは全体的にすっきりしたが、逆に前の様式から抜け落ちているものもある。例えば、文化スポーツ課所管以外の「自然の回廊」等は、今回の評価シートではどのような形で入ってくるのか。

<事務局>

「自然の回廊」については、「6つの施策の柱」の中に示されてはいるが、他所管ということで、事業として取り上げて評価することはしない。

<事務局>

前年度までの評価シートと今回提案する評価シートの様式の違いは、前年度までが総合計画実施計画に位置付けられた事業ごとの評価であったが、今回は「6つの施策の柱」ごとの評価ということである。「6つの施策の柱」の目的の下にどの事業が当てはまるかというところで、これまでの考え方とは逆転している。これは、所管課と、文化振興の拠点である文化プラザホール指定管理者が「6つの施策の柱」に基づいて自主文化事業の事業計画をし、実施後にどれだけその目的にかなうことができたかを評価するという流れを意識したものである。より文化振興基本計画を重視する方向性を強めるためのものである。

<委員長>

「6つの施策の柱」に示された目的に対して、実際の事業がどれだけ成果があったかを評価するというところでよろしいか。

<事務局>

その通りである。前年度の評価シートからのデメリットとして、「6つの施策の柱」の目的は定性的な表現が多いため、所管課による自己評価も定性的なものになり、それを評価していただく、ということが多くなる。

<委員長>

今、例として入っているものは定量的な実績が多いが、実際はより定性的な評価が増えてくると考えてよいか。

今日出た意見も踏まえて、評価シート様式の変更についての方向性については、これによろしいか。

また、事業費についても、別資料するという事によろしいか。

<全委員>

(異議なし)

<事務局>

ご意見を踏まえて評価シート様式を修正し、より精査した自己評価を記載したものをご確認いただく。

<委員長>

今後、本委員会が政策提言を目指すにあたり、何回かの評価を経たうえで、具体的に個別の事業についての成果の明確化と、更に強化すべきか改廃すべきかの判断をすることも検討したい。そのようなことについて、評価シートの中に記載していくか別途作成するか。

<山崎委員>

「(仮称) 逗子アーカイブス」について、進捗が無いものと挙げられているが、「(仮称) 逗子アーカイブス」だけで進めるのではなく、他の事業と絡めて推進していくのが良いのではないかと。また、地域文化の活性化という観点から評価できたらよいと思う。

<事務局>

参考資料3をご覧いただきたい。昨年12月から「逗子フォト」事業として、企画課が、市が保有する写真についてホームページで公開している。市としては、まずはこの事業を拡充し、今後「(仮称) 逗子アーカイブス」と連携していくということで調整している。

<山崎委員>

「逗子フォト」事業についても、市民がどのように活用したか等を数値化すれば評価できる。

<事務局>

市では7,000枚の写真を保有しているが、市民からも3件程度の申出があったとのことである。

<富岡委員>

写真を掲載するだけでなく、歴史的な解釈や、専門家のコメントをつける等、写真の意味づけも含めてきちんと整理すれば、文化事業として良いものになる。

<事務局>

そのあたりが弱いところなので、文化振興基本計画策定・推進会議の皆さんにも検討をお願いしている。

<委員長>

政策提案としては「逗子アートフェスティバル」等についてはきちんと進捗があるので、それを評価すればよいが、進捗の見られない事業については、本委員会で積極的に意見していくということが必要と思う。

<奥野委員>

事業を実施する拠点が良く分からない。どういう形で文化事業が進められているのか。

<事務局>

文化プラザホールが文化施策の拠点であり、指定管理者が自主文化事業として行っている。

<委員長>

その他に「逗子アートフェスティバル」については市民による実行委員会が行っている。

逗子市では市民協働がかなり進んでおり、市が文化振興を担うというより、市民や指定管理者が主体となりそれを支えていくという色合いが強い。逆に、博物館系の拠点が明確でないのが現状といえる。

今後は、新しい評価シート様式を今日の意見を踏まえて修正し、それに沿った所管課の評価をし、本委員会での評価というように進めていく。第2回会議までの間に、メール等により皆様とやり取りをしながらまとめていく。

(2) 平成30年度事業について

<委員長>

議題2「平成30年度事業について」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

参考資料2をご覧ください。現在、本市の財政状況は大変厳しい状況である。

平成28年度決算の状況が大変厳しかったことから、緊急財政対策本部が昨年6月に立ち上がり、市の全ての事業についての見直しを実施し、財政対策プログラムを策定した。平成30年度の予算に対して7億円の不足が生じ、事業の見直し等を行った。普及啓発やイベント等は全て休止若しくは廃止となる中、「逗子アートフェスティバル」についても負担金0円となった。しかし、逗子アートフェスティバル実行委員会では継続の意向が強く、自立的な組織を作ろうということで、新たな実行委員会と実行組織（「逗子アートネットワーク」）を立ち上げ、市民だけでなく市外の方も集まって、実施に向けて検討している状況である。

文化プラザホールの指定管理については、第二期の指定管理が始まったところであるが、指定管理料を削減するなどした。ただし、他施設が休館日の見直し等を行っている一方、ホールは維持管理費等の見直し等により、休館日や開館時間は現状維持となった。

<事務局>

(資料5の説明。)

<委員長>

30年度については、市の施策全体でかなりの変更があるようだが、この変化を踏まえて、29年度についても評価をすることが求められていると理解している。リーディング事業である「逗子アートフェスティバル」の負担金0円というのは相当厳しいと思う。

<事務局>

財政対策プログラム上では、全てのイベント事業は休止となっている。ただし、3年後のトリエンナーレについては何らかの財政支援が必要と考えている。

<山崎委員>

市民が体力をつけなければならない。

<富岡委員>

チャンスと見るか。資金の部分についても検討しなければならない。

<委員長>

ホールの自主文化事業についても縮小したのか。

<事務局>

事業数としては大きく変更はない。

<事務局>

今後の予定について、資料6をご覧ください。本日の意見を踏まえて評価シートを修正し、メール等で確認いただくことにする。

第2回会議は9月頃開催の予定である。

10月末までに教育長への報告の予定である

(3) その他

<委員長>

本日の会議を通して、意見等あるか。

<全委員>

(なし)

<委員長>

以上で「平成30年度 返子市文化振興基本調査・評価委員会 第1回会議」を終了する。

3 閉 会

以上